

vRealize Automation 7.5 リリース ノート

2019 年 9 月 5 日更新

vRealize Automation | 2018 年 9 月 20 日 | ビルド 10053539

リリース ノートを定期的に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [新機能](#)
- [国際化](#)
- [システム要件](#)
- [ドキュメント](#)
- [vRealize Code Stream の使用](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

新機能

vRealize Automation 7.5 リリースでは問題の修正、および次の新機能が含まれています。

最新のユーザー インターフェイスと UX デザイン

vRealize Automation では、一般的なセルフサービス タスクのデザインが新しくなり、フローが合理化されました。

- VMware Clarity 標準にアップデートされたユーザー インターフェイス
- カタログ カードの拡張によってより多くの説明を表示
- 見やすいカタログ ビュー
 - ビジネス グループ全体で同じカタログ アイテムの複数のインスタンスがロールアップされました。ユーザーは申請時にビジネス グループを選択します。
- [アイテムと申請] タブを新しい [展開] タブにマージ
- 廃棄リソースに関する申請の詳細を [管理] タブに移動
- 進行中の申請ステータスの表示を強化
- 単一の展開に関連付けられたすべての申請を [履歴] ビューで時系列に表示
- 製品のメニューおよびオブジェクト全体で検索機能を強化
- 製品のユーザー インターフェイスからドキュメントへのコンテキストを考慮したアクセス
- ホーム画面とポートレットは、このリリースで廃止
- 申請の [保存] ボタンは、このリリースで廃止

vRealize Operations との連携の強化

このリリースでは、アプリケーション所有者向けのダッシュボードの展開と、vRealize Operations との連携によるインテリジェントなワークロード配置機能の強化が導入されています。

- [展開の詳細] ビューで、マシンの展開アラートおよび主要なメトリック（CPU、メモリ、IOPS、およびネットワーク）を表示
- vRealize Automation の管理対象ワークロードを最適化することで、vRealize Operations 配置ポリシーに準拠

- これは、初期配置を最適化するための以前の連携に基づいており、既存のワークロードの継続的な最適化が可能です。

詳細については、「[vRealize Operations Manager ベースの管理](#)」および「[vRealize Operations Manager を使用した継続的な最適化](#)」を参照してください。

構成自動化フレームワーク

外部 Ansible Tower 構成管理ツールとのネイティブ統合。

- vRealize Automation のファースト クラス オブジェクトとして Ansible Tower の OOTB サポート
- ブループリント デザイン キャンバスでの Ansible Tower オブジェクトのドラッグ アンド ドロップ
- 申請時のパラメータ化と事前バインドおよび事後バインドのサポート
- アプリケーション構成でプレイブックを含む Ansible ジョブ テンプレートを動的に選択可能
- インストール後にマシンの登録または廃棄を行うためのアクションのサポート

詳細については、「[Ansible エンドポイントの作成](#)」および「[vSphere ブループリントへの Ansible コンポーネントの追加](#)」を参照してください。

NSX-T Data Center のネイティブ統合

vRealize Automation は NSX-T Data Center とネイティブ統合されました。

- vRealize Automation のファースト クラス オブジェクトとして NSX-T Data Center を OOTB サポート
- 以下の NSX-T Data Center サービスをブループリント デザイン キャンバスにドラッグ アンド ドロップ
 - オンデマンド ロード バランサ
 - オンデマンド ルーティング ネットワーク
 - オンデマンド NAT 1 対多ネットワーク
 - 既存のセキュリティ グループ
- インストール後アクションのサポート
 - 展開した仮想マシンに適用されるセキュリティの更新
 - オンデマンド NAT ネットワークの NAT ルールの変更

詳細については、「[Create a NSX-T Endpoint](#)」、「[Understanding NSX-T Deployment Topologies](#)」、および「[Designing Blueprints with NSX-T Settings](#)」を参照してください。

Kubernetes クラスタと PKS の統合でのアクセス ガバナンス

vRA での Kubernetes クラスタの管理が簡素化されます。PKS エンドポイントと連携し、PKS (Kubernetes) クラスタを作成してビジネス グループに関連付けることにより、クラスタのライフサイクル管理の簡素化が可能になります。これにより、Docker イメージをポッドとして展開することができます。さらに vRA で、開発チームのネイティブ クラスタへのアクセスが簡素化されます。

- PKS クラスタの管理
 - PKS エンドポイントの登録後、コンテナ管理者は Kubernetes クラスタの作成、更新、削除、ビジネス グループとの関連付け、さらに既存の Kubernetes クラスタの検出が可能になります。
 - コンテナ管理者は、PKS クラスタの管理能力を、ガバナンスを持つビジネス グループのメンバーに委任することで、開発チームの能力を向上させることができます。
- Docker イメージの PKS クラスタへの展開
 - コンテナ管理者または開発者は、Docker イメージを PKS クラスタに「ポッド」として展開できます。
- PKS クラスタへのネイティブ アクセス
 - 開発者は、kubeconfig をダウンロードすることで PKS クラスタの確認とアクセスをネイティブに実行できます。

Microsoft Azure ブループリントの拡張

- Azure 管理ディスクのサポート

- Azure リージョンのサポートの拡張

詳細については、「[Microsoft Azure エンドポイントの作成](#)」および「[Microsoft Azure 用ブループリントの作成](#)」を参照してください。

インストール、アップグレード、移行、およびパッチ適用の強化

証明書管理の強化：

- 証明書の詳細を取得する API 機能
- 監査を目的とする、すべての証明書管理処理のログを収集
- 証明書の置き換え前に事前チェックを自動的に実行
- DEM とエージェントの両方に Non-HttpActivation のチェックを追加

仮想アプライアンス管理インターフェイスのアップデート：

- 外部 vRO からの自動移行
- ノード削除時およびデータベース フェイルオーバー時の回復性を向上
- 新しい前提条件および検証チェックをアップグレードに追加
- **Updated:** vRA 7.4 から以降のバージョンへのアップグレード中にロード バランサのセカンダリ ノードを無効にする、あるいはロード バランサの健全性モニタを削除することが不要に

パッチ適用：

- 適用されるパッチの進捗を vRA API で取得
 - vRealize Lifecycle Manager がこの API を利用します。
- ホットフィックスの適用が idempotent 処理に
 - たとえば、同じホットフィックスを 2 回適用しても、製品への悪影響は発生しません。製品は、すでに適用されているホットフィックスを無視するか、適切なステータス メッセージを返します。
- パッチ管理コマンドの新しいメタデータ定義
- パッチ管理ユーザー インターフェイスの向上 (VAMI)
- パッチ ビルドの標準バージョンング

詳細については、「[vRealize Automation のインストールまたはアップグレード](#)」を参照してください。

トラブルシューティングの向上

- 失敗した展開や見当たらない展開を強制的に削除または再送信するための処理を向上
- 移行後の検証
- ソリューション全体で一貫したログ追跡
- トレース ID を vRealize Orchestrator Plug-in APIU に公開

vRO データベースのクラスタリングと構成

外部 vRO 仮想アプライアンスが 7.5 に更新されました。

- Orchestrator アプライアンスにアップグレードすることはできません。vRA に付属している組み込みのアプライアンスへの移行、または別の vRO 7.5 仮想アプライアンスへの移行のいずれかのみが可能です。
- VAMI で利用できる新しい移行ウィザードで、外部 vRO から、vRA で展開した組み込み vRO への移行が可能になります。
- 組み込みの Postgres データベースの変更

- 組み込みの Postgres データベースはクラスタ化が可能で、データベースの自動フェイルオーバーをサポートします。
- vRealize Orchestrator 7.5 で使用できる組み込みの PostgreSQL データベースのみを使用可能です。Microsoft SQL Server および Oracle Database を外部データベース サーバとして使用することはサポートされません。
- Orchestrator コントロール センターを使用してクラスタを設定したり、移行を実行することはできなくなりました。
 - クラスタとデータベースの管理と、移行の実行には VAMI インターフェイスを使用する必要があります。
- 仮想アプライアンス アーキテクチャが更新され、展開による占有量の削減と操作性の向上が実現

カスタム フォームの強化

- vRealize Business フィールドのサポート
- 初期状態で vRO コンテキスト アクション パラメータをサポート
- 編集可能な新しいドロップダウン コンポーネント
- ストレージ データグリッドにフィールドを追加、削除する機能

カスタム フォームの詳細については、「[Customizing Blueprint Request Forms](#)」を参照してください。

イベント ブローカの強化

- すべての後続ワークフローの実行を明示的に停止する機能の追加により、障害および例外の管理を強化
- 状態に登録済みのワークフロー サブスクリプション間でペイロードを再利用および統合する機能の追加により、ペイロードの利用メカニズムを拡張

詳細については、「[Define Workflow Subscriptions Details](#)」および「[Assigning a Workflow to a Subscription](#)」を参照してください。

NEW: 予約の強化

以前の vRA 7.5 予約は、ロード中にタイムアウトになることがありました。単一の予約をロードする時間は、予約で使用されるホストの構成とそれらに接続されているストレージ構成間の相関です。予約オブジェクトの計算は、vRA 7.5 でユーザー インターフェイスと API が大幅に向上しました。複数の予約のロードも最適化されています。

NEW: ポートとプロトコル ツール

新しいポートとプロトコル ツールを使用すると、さまざまな VMware 製品とその組み合わせのポート情報を単一のダッシュボードで表示できます。また、ツールから選択したデータをエクスポートしてオフラインでアクセス可能にすることもできます。ポートとプロトコルは、現在次の製品をサポートしています。

- vSphere
- vSAN
- NSX for vSphere
- vRealize Network Insight
- vRealize Operations Manager
- vRealize Automation

このツールは、<https://ports.vmware.com/> で入手できます。

国際化

vRealize Automation 7.5 は、次の言語で使用できます。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- スペイン語
- 日本語
- 韓国語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- イタリア語
- Russian
- オランダ語
- ブラジルポルトガル語

各製品でサポートされている言語については、『[VMware Product Globalization Guide](#)』を参照してください。

システム要件

サポート対象のホスト オペレーティング システム、データベース、および Web サーバについては、『[vRealize Automation Support Matrix](#)』を参照してください。

ドキュメント

vRealize Automation 7.5 のドキュメントは、VMware のドキュメントにある「[VMware vRealize Automation](#)」を参照してください。

インストール

前提条件とインストール手順については、VMware のドキュメントにある「[vRealize Automation のインストール](#)」を参照してください。

vRealize Suite ライフサイクル マネージャを使用して vRealize Automation をインストールすることもできます。「[vRealize Suite Lifecycle Manager のインストールアップグレード、アップグレードおよび管理](#)」を参照してください。

注: クラスタへの参加の検証エラーに対処については、ナレッジベースの記事 [KB58708](#) を参照してください。

アップグレード

一般的なガイダンスについては、VMware のドキュメントにある「[vRealize Automation のアップグレード](#)」を参照してください。

vRealize Suite ライフサイクル マネージャを使用して vRealize Automation をアップグレードすることもできます。「[vRealize Suite Lifecycle Manager のインストールアップグレード、アップグレードおよび管理](#)」を参照してください。

vRealize Automation 6.2.x からのアップグレードの準備

vRealize Production Test Upgrade Assist Tool は、vRealize Automation 6.2.x 環境を分析してアップグレードに関する問題を引き起こす可能性がある機能構成を特定し、使用環境のアップグレード準備ができていることを確認します。このツールおよび関連ドキュメントをダウンロードするには、VMware vRealize Production Test Tool の [製品のダウンロード](#) ページに移動します。

vRealize Code Stream の使用

vRealize Automation 環境で vRealize Code Stream を使用するには、vRealize Code Stream ライセンスを保有している必要があります。

詳細については、vRealize Code Stream 情報センターの「[vRealize Code Stream Installation](#)」および「[Apply a vRealize Code Stream License to an Appliance](#)」を参照してください。

解決した問題

- **仮想アプライアンスが 1 台以上利用できないと vRealize Automation 健全性サービスで複数のエラーが表示される**
仮想アプライアンスが 1 台以上利用できないと、健全性サービスにエラーが生じます。一部のエラーのせいで、その他に発生しているエラーが覆い隠されてしまう可能性があります。
 - **New: vRealize Automation 7.4 への IaaS 自動アップグレードが実行された後で、Manager Service の自動フェイルオーバー モードが有効になる**
vRealize Automation 7.3 または 7.3.1 から 7.4 へアップデートまたは移行する際に、アップデートまたは移行前に自動フェイルオーバーを意図的に無効にしていた場合、vRealize Automation 7.4 への IaaS 自動アップグレード実行中に自動フェイルオーバー機能が有効になります。
 - **Azure 仮想マシン向けのプロビジョニング後処理のパブリック IP アドレス管理がタイムアウトになる**
vRealize Orchestrator から Azure 仮想マシンの現在のパブリック IP アドレスおよび利用可能なパブリック IP アドレスを取得するのに非常に長い時間がかかります。vRealize Automation で次のエラーメッセージが表示され、処理がタイムアウトになります。「vCenter Orchestrator サーバへの接続でタイムアウトが発生しました。」
 - **BP プロファイルの詳細がカスタム申請フォームに表示されない**
カスタム申請フォームでサイズなどの BP プロファイルを使用している場合、具体的なプロパティの詳細がカスタム申請フォームに表示されません。
 - **カタログ アイテム申請を送信した直後にキャンセルすると、処理がキャンセル中の状態で停止して表示される**
システムが申請完了イベントを呼び出していないため、申請がキャンセル中の状態で停止します。
 - **vRealize Automation 6.2.4 から 7.3.1 に正常に移行してから再プロビジョニングすると、基本ユーザーおよびサポート ユーザーに対して 404 エラー メッセージが返される**
基本ユーザーおよびサポート ユーザーに対しては 404 エラーが表示されますが、インストール後の作業中に、管理者ユーザーには表示されません。
 - **変更したプロパティの値がカスタム フォームに自動的に反映されない**
カスタム申請フォームでプロパティ グループの一部であるカスタム プロパティを使用している場合、その値は初回使用時に一度設定されます。それ以降に変更したプロパティ値はカスタム申請フォームに反映されません。
 - **vRealize Orchestrator を移行すると、移行元 vRealize Orchestrator サービスのデータベース内の重複に関するエラーが発生することがあるユーザー インターフェイスに表示されるエラーは、次のようになります。移行元 vRealize Orchestrator データベースの検証に失敗しました。Orchestrator データベースに重複するエントリが見つかりました: アクション カテゴリの重複: 名前が「actionName」の 1 つのアイテム。不要なアイテムを削除して重複を解決します。**
この移行前の手順では、移行元 vRO データベース内の重複するエントリについて通知され、検証段階で移行プロセスが停止されます。移行元 Orchestrator データベース内のすべての重複するエントリが報告されるため、移行を再実行する前に、それらを確認して手動で削除する必要があります。
- 移行元 Orchestrator データベースに重複するエントリがある場合は、vRealize Orchestrator 7.5 への移行は失敗します。移行を再度実行する前に、重複するエントリに対応する必要があります。
- **ログバンドルのダウンロードを要求すると、大きな遅延が発生する**

修正前、ログ バンドル アーカイブはダウンロード要求時にオンザフライで生成されていました。修正後、アーカイブはログ バンドルの一部として生成されるため、ファイル システム上にあらかじめ配置されます。

- **アップグレードまたは SSO の admin パスワードを変更すると vRA ポータルが停止し、サービスを利用できなくなる**
ユーザーが vRO コントロール センターでカスタム vRO 認証プロバイダを設定している場合、アップグレードまたは SSO の admin パスワードを変更すると、値がデフォルト値 (vsphere.local\vcadmins) でオーバーライドされます。
- **データベースのフェイルオーバーが発生したため、IaaS のアップグレード中に vRA のアップグレードが失敗する**
vRealize Automation 7.3.1 および 7.4 では、Postgres 同期レプリケーションは、仮想アプライアンスの更新前のスクリプトの最初に無効にされ、仮想アプライアンスのアップグレード プロセスの最後に再び開始されます。これにより、マスター仮想アプライアンスを再起動した後フェイルオーバーが発生するため、IaaS アップグレード段階でエラーが発生する可能性があります。
- **期限切れのユーザーが原因で、データベースのフェイルオーバーが失敗することがある**
システム ユーザー アカウントの有効期限が切れている可能性があります。
- **ブラウザが最大化されると、バッチ アップグレードの [実行] ボタンが機能しない**
VAMI のソフトウェア エージェント タブに移動し、ブラウザが最大化されている状態で [実行] をクリックすると、バッチ アップグレードのボタンが機能しません。
- **ソフトウェア エージェントのテキスト ボックスで情報ツールチップの一部としてデフォルト値が入力されないものがある**
ソフトウェア エージェントのテキスト ボックスに、情報ツールチップの一部としてデフォルト値が入力されません。
- **vRealize Orchestrator データベースに重複エントリがあるため、vRA 7.5 へのアップグレードに失敗する**
これは、vRealize Orchestrator データベースに重複するエントリがある場合に発生することがあります。VAMI の更新タブに、インストール前の段階でアップグレードが失敗したことを示すエラーが表示されます。アップデート前のログに、次のタイプのエラーが記録されることがあります。システム テーブルの重複:
データベース テーブル「vmo_scriptmodulecontent」に ID が「xxx」の 2 つのアイテム
不要なアイテムを削除して重複を解決します。
- **サイズの大きいプラグインをインストールできない**
vRO 構成サーバの最大サイズは引き続き 512 MB に制限されています (vRO サービス自体ではなく、vRO コンフィギュレータ サービスです)。プラグインのサイズが大きい場合には、プラグインを正常にインストールするために vRO 構成サーバを手動で調整する必要があるため、このことはユーザーにとっては非常に不利になります。vRO 構成サーバのメモリ サイズは 768 MB に変更されました。
- **NEW: カスタム プロパティがブループリント レベルでソフトウェア サービスを介して渡されると、SQL 2014 インストーラ エラーが発生する**
Windows 2016 マシンに SQL 2014 をインストールすると、ブループリント レベルで追加されたプロパティによって、ソフトウェア レベルで同じプロパティが重複してしまいます。SQL 2014 のインストール エラーが表示されます。

```
Microsoft.SqlServer.Chainer.Infrastructure.ChainerInfrastructureException: Item has already been added.Key in dictionary: 'swa_osversion' Key being added: 'swa_osversion' --->
System.ArgumentException: Item has already been added.Key in dictionary: 'swa_osversion' Key being added: 'swa_osversion'
```

ここで「swa_osversion」は、ユーザーがブループリント レベルで追加したカスタム プロパティです。

既知の問題

既知の問題には、次のトピックが含まれます。

- [インストール](#)
- [アップグレード](#)
- [以前の既知の問題](#)

インストール

- **vRealize Automation 7.2 をトルコ語版の Windows にフレッシュ インストールする際にデータベースの構成に失敗する**

IaaS サーバがトルコ語版の Windows の場合、vRealize Automation インストール ウィザードはデータベースの構成中に失敗し、次のエラー メッセージが表示されます: MSB3073。

回避策: この問題は今後のリリースで解決される予定です。

- **vRealize Automation 7.3 の IaaS Web サイト コンポーネントを手動でインストールすると、IaaS インストーラに証明書の検証エラーが表示される**

Web サイト コンポーネントを選択した状態で IaaS サーバのカスタム インストール ページで **[次へ]** をクリックすると、エラー メッセージが表示されます。このエラー メッセージは誤りで、正しいオプションを選択しているときでも表示されます。

回避策: vRealize Automation アプライアンス上で SSH 接続を開きます。Web サイト コンポーネントをインストールするマシンのノード ID を取得するには、コマンド `vra-command list-nodes` を実行します。また、Web インストール コマンド パラメータのヘルプを取得するには、コマンド `vra-command help install-web` を実行します。

- **New: Java update 1.8、バージョン u192、u201、および u202 は、7.5 のインストールと互換性がありません。**

最新の Java update 1.8、バージョン u192、u201、および u202 では、前提条件の自動修正が適用されていない場合、IaaS データベースのインストールで問題が発生する場合があります。

回避策: Java バージョン 1.8 u191 を使用します。または、前提条件の自動修正を有効にして 7.5 をインストールし、古い Java バージョン 1.8 u191 を IaaS マシンにインストールすることもできます。インストールが完了したら、新しい Java バージョン 1.8 u201 または u202 を手動でインストールできます。

- **vRealize Automation 7.5 クラスタのインストールが join-va (クラスタへの参加) ステップで失敗する**

2 台または 3 台の仮想アプライアンスを使用して vRA 7.5 クラスタの新規インストールを実行すると、join-va (クラスタへの参加) ステップで「validation failed」が報告されます。

「retry failed」をクリックしないまま最大 15 分程度待つと、ステータスは最終的に「successful」に変化し、インストールは先に進みます。

これは、ユーザー インターフェイス ウィザードのタイムアウトが短すぎる (30 分) ことが原因で、参加操作が 30 分以上かかった場合に失敗となることがあるためです。

ナレッジベースの記事 [KB58708](#) を参照してください。

- **製品インストール ウィザードの「Retry All IaaS」機能が「Validation failed」ステータスで失敗し、次のようなメッセージが [説明] フィールドに表示される: 「同じキーの項目がすでに追加されています」。**これは、vRealize Automation に影響する既知の問題です。

この問題の回避策は、埋め込み vPostgres データベースに対して SQL update 文「update cluster_commands set output=" where type like '%install%';」を実行してから、再度「Retry All IaaS」処理を実行することです。

- **vRA 7.5 の初期 OVF 展開が次のエラーで失敗: 展開に失敗しました。再度展開する必要があります。**アプライアンス コンソールで初期 OVF を展開した後、次のようなエラーが表示されます。

エラー: 展開に失敗しました。再度展開する必要があります
エラー ログが /var/log/boot.msg にあります

回避策: ナレッジベースの記事 [KB59333](#) を参照してください。

アップグレード

- **IaaS の自動アップグレード中に、upgrade-dem または upgrade-agent コマンドが失敗するコマンドの結果は次のようになります。結果: サービス名に無効な文字が含まれているか、空白であるか、または長すぎます (最大長 = 80)。**また、管理エージェント All.log ファイルに同じエラーが見つかりました。記載されているサービスの名前が 80 文字を超えています

IaaS での Windows サービスの処理に使用する Microsoft .Net API では、Windows サービス名に 80 文字の制限があります。ただし、実際には OS で 256 文字の長さが許可されています。サービスを再開すると、DEM/DEO/エージェントのアップグレードの最後でこの問題が発生します。

サービス名を短いものに変更する必要がありますが、Windows コマンド ラインツール/API では表示名を変更することはできるものの、サービス名は変更できません。この問題はサービスを再インストールすることで回避できます。具体的には、サービスをアンインストールしてから、https://<vami_host>:5480/installer の VAMI インストール ページから IaaS インストーラをダウンロードします。それぞれの IaaS ホスト上でインストーラを実行し、適切な名前ですべてのサービスをインストールします。インストール時に各 IaaS サービスでは、入力した名前の前にプリフィックスが自動的に指定されることに注意してください。

サービスに応じて、プリフィックスは次のとおりです。VMware DEM-Worker、VMware DEM-Orchestrator、VMware vCloud Automation Center Agent。注: 名前を変更するために IaaS エージェントを再インストールする場合は、対応するエンドポイントの名前も vRA で変更する必要があります。

- **vRealize Automation 7.1 から 7.4 を 7.5 にアップデートした後、CPU の負荷が増加する**

vRealize Automation 7.1 から 7.4 を 7.5 にアップデートすると、IaaS データベースの DynamicOps.Repository.WorkflowSchedules テーブルに重複エントリが追加されます。重複するスケジュールは、メトリック ワークフロー用です。アップデート後、同じ計算を同時に実行する複数のメトリック ワークフローによって、システムの CPU 負荷が増加します。

回避策: ナレッジベースの記事: [KB2150239](#) を参照してください。

- **vRealize Automation 7.3 以前のバージョンからのアップグレード後、Get Details Form API 呼び出しを使用するアプリケーションの動作が停止する**

vRealize Automation 7.3 以前では、カタログ サービス API GET /api/consumer/requests/{id}/forms/details を使用して取得された XaaS 要求プロパティの次のリストにスペルミスがありました。

- "vco.execurion.state"
- "vco.execurion.business.state"
- "vco.execurion.current.activity.name"
- "vco.execurion.start.date"
- "vco.execurion.end.date"
- "vco.execurion.error.details"

vRealize Automation 7.3.1 では、「execurion」が「execution」に修正されました。以前のスペルで XaaS 要求プロパティを使用し続けていたアプリケーションは動作を停止しました。

回避策: スペルミスのある XaaS 要求プロパティにコンテンツが依存しており、vRealize Automation 7.3.1 以降を実行している場合は、以下のスペルで現在の XaaS 要求プロパティを使用するようにアプリケーションをアップデートします。

- "vco.execution.state"
- "vco.execution.business.state"
- "vco.execution.current.activity.name"
- "vco.execution.start.date"
- "vco.execution.end.date"
- "vco.execution.error.details"

- **vRA 7.3 以降からアップデートすると、vRA 7.5 に健全性サービスの設定データが見つからない**

健全性サービスのデータは、vRA 7.3 および 7.4 の健全性サービスで使用されていた内部データベースではなく、vRA Postgres データベースに保存されます。履歴データを移行する方法は用意されていません。アップデート後に健全性サービスを再設定する必要があります。

回避策: アップデート後に健全性サービスのチェックを構成します。

- **New:** バージョン 7.5 へのアップデートまたは移行後に、起動、停止、再起動などのインストール後の操作が Azure マシンに表示されない
バージョン 7.x から 7.5 へのアップデートまたは移行後に、起動、停止、再起動などの操作が表示されません。

回避策: ナレッジベースの記事 [KB58864](#) を参照してください。

- **New:** vRA 7.5 にアップグレードすると、[予約] のストレージ グリッドでポピュレートされない
vRA をバージョン 7.5 にアップグレードすると、[予約] のストレージ グリッドでポピュレートされません。

回避策: コマンド ラインまたは vRealize Automation のアプライアンス管理インターフェイスから VMware vCloud Automation Center サービスを再起動します。

- **NEW:** vRO 用の setenv.sh ファイルによるカスタム アップデートがアップグレード後にオーバーライドされる
vRO 用の setenv.sh ファイルによるカスタム アップデートは、アップグレード後にオーバーライドされます。このファイルは /usr/lib/vco/app-server/bin/setenv.sh にあります。必要に応じてアップグレード後に値を更新し、vco-server を再起動して変更を適用します。
- **NEW:** Log Insight Agent Service と Log Insight Agent Updater サービスが実行されている場合、アップグレード プロセスはアップグレードの完了後に自動的に停止し、起動しません。
Log Insight Agent Service と Log Insight Agent Updater サービスがインストールされ実行されている場合、アップグレード プロセスが自動的にそれらのサービスを停止します。アップグレード後に、Log Insight Agent サービスを手動で開始する必要があります。

構成とプロビジョニング

- 高負荷時に、vRA クラスター ノードがロード バランサ上で「ダウン」と報告されることがある
高負荷時またはフェイルオーバー操作後、外部ロードバランサの vRA ノードに「ダウン」(エラー 503) のフラグが付けられることがあります。vRA 7.5 では、vIDM の健全性チェックは vRA ノードの健全性チェックとは独立して実行されています。
ストレスの高い状態では、組み込みの vIDM インスタンスの健全性チェックは応答に時間がかかり、ロード バランサで vRA ノードがダウンとして早期にフラグ付けされます。

ナレッジベースの記事 [KB58709](#) を参照してください。

- **Chrome、Edge、IE で読み取り専用テキストのサイズを変更できない**
Microsoft CSS はサポートされていないため、XaaS ブループリントに大きいサイズの Text Area がある場合、Chrome、Edge、IE ではそのテキスト領域のサイズを適切に変更できません。

代替策として、Firefox ブラウザを使用できます。

- **タイプが Array of Any の外部 vRO アクションは、カスタム フォームのフィールドまたはプロパティへの入力でサポートされない**
カスタム フォームのフィールドまたはカスタム プロパティを Array[Any] タイプの vRO アクションによって入力するように設定すると、フォームでエラーが発生し、正しく動作しないことがあります。
この戻り値のタイプを持つアクションを使用すると、さまざまなユースケースでエラーが発生しやすくなるため、フォームでの使用は推奨されません。

なし

- **ソフトウェア サービスによってプロビジョニングされたイベント ブローカのリソースがクリアされず、マシン レベルの再プロビジョニングでソフトウェアのプロビジョニングが失敗する**

ソフトウェア要素が展開されているマシンに対してインストール後の再プロビジョニング処理を実行すると、プロビジョニングされた仮想マシンにソフトウェアは再展開されません。

回避策: なし。

- **IE11 および Edge ブラウザではインストール後のアクション メニューの一部が表示されない**

展開のサブ マシンが 1 台または 2 台だけの場合、IE11 および Edge ブラウザではインストール後のアクション メニューの一部が表示されません。

回避策: アクション リストの一部が画面に表示されていない場合は、スクロールでリスト全体にアクセスできます。Firefox または Chrome ブラウザを使用することもできます。

- **New: Firefox ブラウザを使用してブループリントを作成または編集する際には、[テンプレートのクローン作成] の仮想マシンの最大ストレージの値を手動で入力する必要があります**

Firefox でのブループリントの編集時、仮想マシンのビルド情報で [テンプレートのクローン作成] が選択され、赤くマークされて強調表示された後は最大ストレージの値が [マシン リソース] タブで自動入力されません。

最大ストレージの値は手動で入力する必要があります。

- **New: リースの変更後のアクションで承認が実行されず、リースの変更アクションが承認を待機せずに進行してしまう**

承認が要求されたリースの日数の条件に基づくと、たとえば、「サービス カタログ - リソース アクション申請 - リースの変更 - 展開/マシン」のようなポリシー タイプを使用する承認ポリシーの場合、承認はリースの日数を満たす句に基づいて要求され、カタログ資格のポリシー タイプと関連付けられます。マシンのリースを変更する際にマシンをプロビジョニングすると、アクションは承認の呼び出しなしに処理されます。

回避策: リースの変更で、リース日数の句を追加せずに「常時」を使用します。

- **[カスタム フォーム] のバインド フィールドとして [サブテナント ラベル] を使用すると、デザイン ユーザー インターフェイスが動作しなくなる**

ユーザー インターフェイスのカスタム フォームでバインド フィールドとして [サブテナント ラベル] を使用すると、バインドが [テナント ラベル] に戻されます。

[カスタム フォーム] ユーザー インターフェイスで [サブテナント リファレンス] を代わりに使用します。[カスタム フォーム] を yaml 形式でエクスポートし、適切なバインドを追加して yaml ファイルを変更し、フォームを再インポートすることもできます。

- **New: vRA モードで [ビジネス マネジメント] タブにアクセスすると、「Unable to authenticate with OAuthToken!」例外が発生する**

vRA モードでは、vRA でユーザー セッションが期限切れになると、[ビジネス マネジメント] タブに以下のメッセージが表示されます。

```
org.springframework.security.authentication.BadCredentialsException: Unable to authenticate with OAuthToken!  
The token is expired.
```

回避策: 一度ログアウトしてから再度ログインします。

- **NEW: アップデートまたは移行を実行すると、Azure 仮想マシン フォームの詳細が表示されなくなる**

vRA 7.x から 7.5 にアップデートまたは移行を実行すると、Azure 仮想マシンの既存のフォームが空白になります。

回避策: ナレッジベースの記事 [KB58864](#) を参照してください。

- **Azure のカタログ申請で、ブループリントで定義されたカスタム プロパティを削除できない**

カスタム プロパティを含む Azure ブループリントがカタログ資格のブループリントに追加された場合、プロパティのデフォルト値は、カタログ申請時に使用またはオーバーライドすることができます。しかし、プロパティを削除することはできません。

回避策: プロパティを使用しない場合は、ブループリントからカスタム プロパティを削除する必要があります。

- **New:** CloudClient を使用してブループリントを vRA にインポートすると、操作ステータスが失敗し、エラー メッセージが表示される

vRA 7.5 では、ブループリントの作成とブループリントの申請時間にソフトウェア コンポーネントの検証が追加されたため、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。例:"operationStatus": "FAILED","operationErrors": [{ "errorCode": 900184, "errorMessage": "In the [Common-Functions] component, the software component [VMware-vRA-Common-Functions is not linked to Common]" }] 検証原則は、隔離された vSphere マシンでは、複数のソフトウェア コンポーネントがある場合は依存関係を持つ必要があります。たとえば、SWA は SWB に依存し、SWB は SWC に依存します (SWA-> SWB-> SWC)。依存関係には、ソフトウェア コンポーネントのインストール時の実行シーケンスが表示されます。2 つのソフトウェア コンポーネントの同時プロビジョニングは許可されず、「In the <[component_name]> component, the software component [SWA is not linked to SWB]」の形式のエラーメッセージが表示されます。

回避策: エラー メッセージに従って、yaml ファイルで問題のあるソフトウェア コンポーネントを見つけ、「dependsOn: -」を別の行にここに示すように追加します。SWA: type: Software.SWA dependsOn: - SWB data:

- **NEW:** [インフラストラクチャ] タブからコンピュー ト リソース予約を作成できない。
[インフラストラクチャ] タブから [コンピュー ト リソース] をクリックして [新規予約] を選択しても、[新規予約] ページが表示されません。

以前の既知の問題

以前の既知の問題のリストを表示するには、[ここ](#)をクリックします。